校長通信「学ばん共に」

その４　「響く言葉を探す」(夏季校内研修　校長の話)

７月１０日　教職員課訪問（１年１組）より

▸教師の指導力で最も大切なものは何か。それは技術では、ないと思います。気持ちです。「**生徒を大切に思う気持ち**」です。青臭い教育論のように聞こえるかもしれませんが、私は本気でそう思っています。その気持ちが強いか弱いかで指導の質は大きく変わります。

▸指導技術は後から補うことができます。でも気持ちはそうではありません。生徒に実際に向き合って意識する中で少しずつ、身につけていかないと本物にはなりません。生徒たちは、「この先生は本気だ」「私たちのことを大事に考えている」ということを体全体で敏感に感じます。

▸では、どうしたら「生徒を大切に思う気持ち」は高まるのでしょうか。この気持ちを最初から持っている人だけが教師になる…というのは理想論です。徐々に高まっていくものだと思います。そして、どのようなプロセスを経てそうなるのか…もちろん、人それぞれではありますが、私の場合について少し話します。

▸私は、新しい情報が加わることで気持ちが高まっていきます。「夢レポ」にペンを入れながら、「こんな夢を持っているんだな」「ああ、この生徒は『なりたい自分』のイメージがあるんだ」などと考えます。その中で、その生徒の名前とイメージが結びついていきます。

▸また、「夢カード」を作成しながら、「こういういいところがあるのか」「担任からこう思われてるんだ」という情報が入ることで、それらのイメージは膨らんでいきます。行事や部活動の大会でがんばる姿を直接目にすることで、さらに、そのイメージは鮮明になっていきます。

▸そうすると、朝、校門に立って、「おはよう」とあいさつを交わしながらも「〇〇をがんばっているＡ君」「〇〇にチャレンジしているＢさん」「〇〇で少し苦しんでいるＣさん」というイメージが脳裏にパッと浮かぶようになります。そういうイメージができると、こちらも自然に笑顔になりますし、「今日もよく学校来たな」という気持ちが声のトーンにもあらわれてきます。

▸生徒に直接関わることが少ない校長だからこそ、関わる時は言葉の使い方に慎重になります。授業・行事・部活動で毎日生徒たちと深く接し、ある時は日記や面談などで心の中をのぞくこともある先生方は生徒たちの情報をたくさん持っています。

▸その中には数字にあらわされない「情（なさけ）を報ずるもの」もあることでしょう。だからこそ、生徒たちを導き諭すという私たちの仕事には、言葉を選ぶ…「**生徒に響く言葉を探す**」という技術が求められます。その技術を身につけることで、私たちは、生徒と適切な距離間を手にし、親にはできないことができる、教師となります。

▸私たち教師は時に「自分の思うようにやりたい」というエゴが出てきます。それは意欲の表れでもありますが、生徒の成長に結びつかない、場合によって信頼関係を崩しかねない危険な指導でもあります。そうしたエゴを持ちやすいことを私たちは常に自覚して言葉を選び、生徒に寄り添う姿勢が求められています。

▸私自身今まで何度も何度も失敗を重ねてきたからこそ、言葉のもつ重み、言葉のもつ力の大きさを実感しています。本日の校内研修が、今私が話した、生徒との良好な人間関係をつくるという土台のもとに教科の専門性を高め、新しい指導技術を共有する価値ある研修になることを願っております。

▸また、第 1 回市教研「研修主任研修会」で私が話した「よい授業『9 つの条件』」を参考資料として配布いたしました。私見ではありますが、先輩方から教わってきたことや、実践の中で感じたことをもとにした資料です。御一読いただき、２学期からの授業実践に何かしらのお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

残暑お見舞い申し上げます。まだまだ暑いですね。
大会・コンクールの引率…お疲れさまでした (^^)v

（北村健治）